



こんにちは
市会議員

井坂博文

です

議会報告

2016年5月29日号

発行/日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町78/電話432-3261/FAX441-4968

これが文化庁移転を進める京都市のやることか?!



京都美団連が市議会に提出した「美術館再整備工事中の貸館使用に関する」請願審査が、5月10日に開かれた市会くらし環境委員会でおこなわれ、私が質疑を行った。文化首都を標榜し、文化庁の京都全面移転を実現した京都市における文化・芸術行政のあまりにひどい実態が明らかにされた。

◆井坂議員/現在の美術館別館をフルに借りると1日の利用料はいくらか。
(↓文化事業担当局長) 約4万円。

◆井坂議員/市が紹介している「みやこめっせ」で同規模の場所を借りるといくらか。
(↓文化事業担当局長) 約16万円。

◆井坂議員/約4倍だ。京都府文化博物館ではいくらになるか。
(↓文化事業担当局長) 約35万円。

◆井坂議員/ここは8倍だ。苦勞してやっているみなさんにとって大変な負担だ。京都市の文化行政をつかさどる局として、これで役割をはたしていると思うのか。
(↓文化事業担当局長) 心を痛めている。美術団体のみなさまにはご迷惑かけるが、どうかこの3年間乗り切っていたいただきたい。ご理解のほどよろしく。

◆井坂議員/4万〜5万でできている展示会が17万〜35万になって「がんばってください」「ご理解ください」で済むのか。あまりにひどい話だ。
(↓文化事業担当局長) 大変心苦しい。これで終わりではない。他の施設の情報提供を中心に、ご迷惑を軽減できるよう努めたい。

◆井坂議員/これだけ迷惑かける、心配かける、苦勞をかけるというなら、何がしかの支援を考へるべきだ。
(↓文化事業担当局長) 市民のみなさまが自主的・主体的にされる活動なので、(財政)支援は違うのではないかと。

◆井坂議員/文化庁を移転し「文化首都としての

役割をはたしていききたい」と看板にする京都市でこういう事態が起きている。京都だからこそできる文化行政を真剣に考えるべきだ。請願の申身に込めるべきだ。

保育所・待機児童問題の解決は待ったなし

17日、党市会議員団と京都府委員会が開いた保育・待機児童問題懇談会。

国の緊急対策も京都市の対策も問題が明らか、現場で進んでいる実態も浮き彫りになり、議会論戦と保育大運動で待機児童ゼロと子どもの命を守る保育園づくりの必要性、緊急性が明らかにされた。



先日の「京都の今とこれからを考えるつどい」で上京区の認可園で起きた園児プール死亡事故を報告した父親の方から、園の対応と京都市の問題を告発していただいた。会場から「えーっ、ひどい」の声が上がっていた。

他にも、民間保育園長、小規模保育事業者が経営者としての悩みと現状を、新婦人や保育士、保護者から実態の告発が出され、とても有意義な懇談会だった。

北区府市政

国政報告会を開催

22日、紫野小学校を会場に開いた北区の府市政・国政報告演説会に230人が参加。

井上哲士参議院議員団長が沖繩での米兵による女性暴行殺人事件を厳しく批判し、基地の全面返還こそ安全・平和な沖繩の道であることを訴え、戦争法に反対する自衛隊員の母親の手紙を紹介すると、涙を拭きながら聞き入る婦人もいた。



続いて登場した大河原さんは元気いっぱい。参加者に対して時には激しく、時には語りかけるように、候補者となって以降の対話の中でつかんだ

市民の声に対する自分の思いと政策を語り、参加者は大きな拍手と歓声でこたえていた。

それを受けて、被爆者、介護事業者、学生の3人が自分の要求と大河原さんへの期待の声を発言し、大河原さんが再度登場し、その声にこたえて自らの思いを語り、双方向のかみ合う話が出来た。

会場に設置した熊本地震被災者への支援募金箱には4万2千円、入り口で渡した共産党躍進募金袋には4万7千円のカンパが寄せられた。忙しい日曜日の昼間に報告演説会に参加し、暮らしが大変なご時世にカンパをいただいたみなさんありがとうございました。



ビックリぽん(^_^)-☆



千本北大路西の歩道と車道の境にある街路樹の切り株。7年前に雑草と犬の糞、ゴミの捨て場になっているのを相談を受けて、土木事務所にかけあい、土を入れ替えてきれいにしてもらった。それが長年の風雪によりボロボロになり、あらためて相談を受けて、切り株の除去と土の入れ替えをお願いすることにした。

ビックリぽんは、その相談を受けている最中に通りすがりの女性が「いさか…ひろふみ…さんですよ。私、ファンなんです。わあー本人ですよ。握手してください」と熱烈アプローチ。

握手を返すと「ありがとうございます。がんばってください」と言って立ち去っていかれた。あつという間の狐に包まれた感じだったが、怒られるより気持ちがいい。がんばる元気が湧いた。